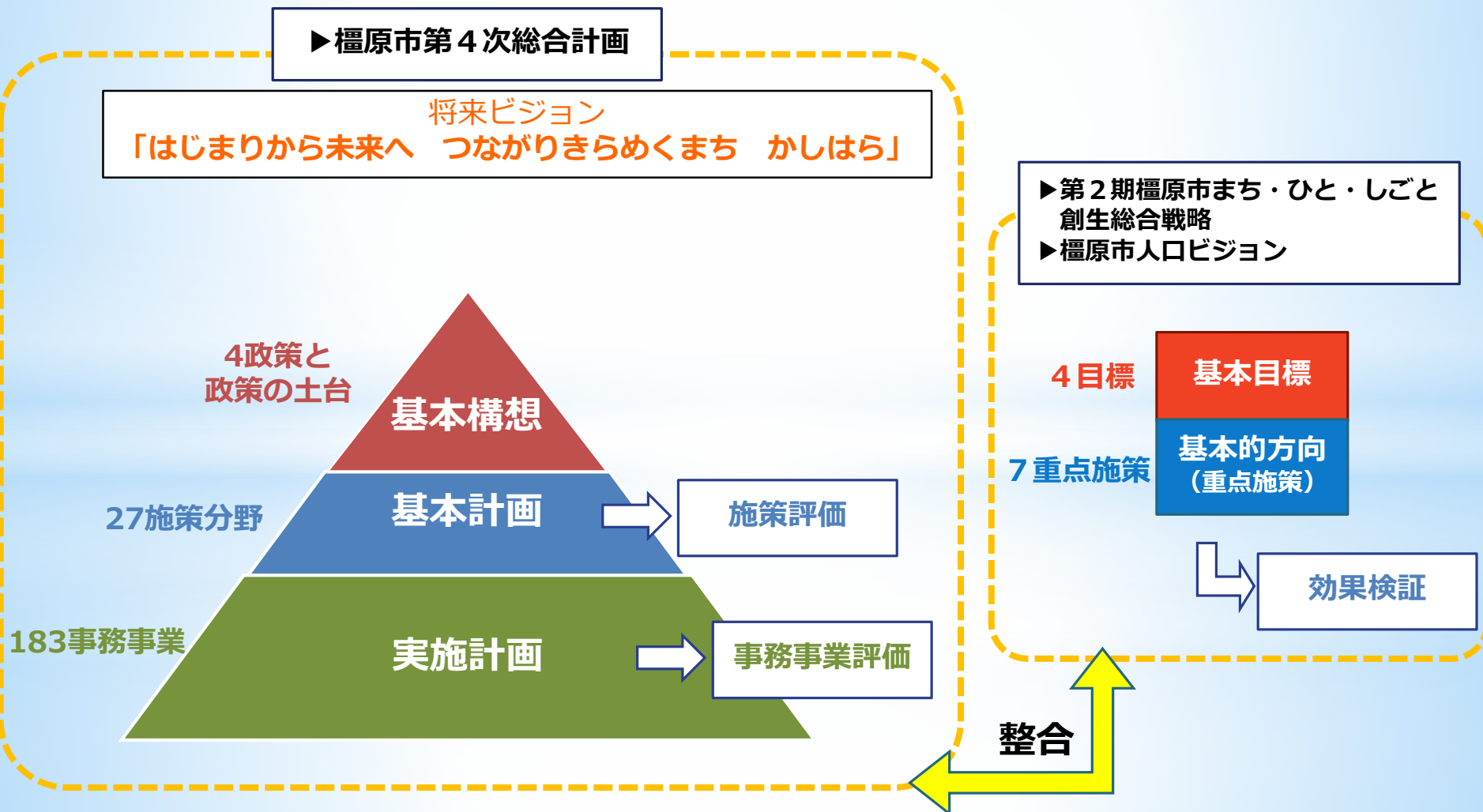


# 第4次総合計画後期基本計画及び 次期総合戦略の策定方針について

# <総合計画・総合戦略の全体像>



# <総合計画・総合戦略の計画期間>

## ● 橿原市第4次総合計画（令和3年度施行）

○基本構想（10年間）⇒令和3年度～令和12年度

○前期基本計画（5年間）⇒令和3年度～令和7年度

## ● 第2期橿原市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和3年度施行）

⇒令和3年度～令和7年度（5年間）

令和7年度に第4次総合計画前期基本計画及び第2期総合戦略の計画期間が終了するため、令和6年度から2カ年かけて後期基本計画及び次期総合戦略を策定します。

# <後期基本計画・次期総合戦略の計画期間>

## ● 檜原市第4次総合計画（令和3年度施行）

○基本構想（12年間）⇒令和3年度～令和14年度

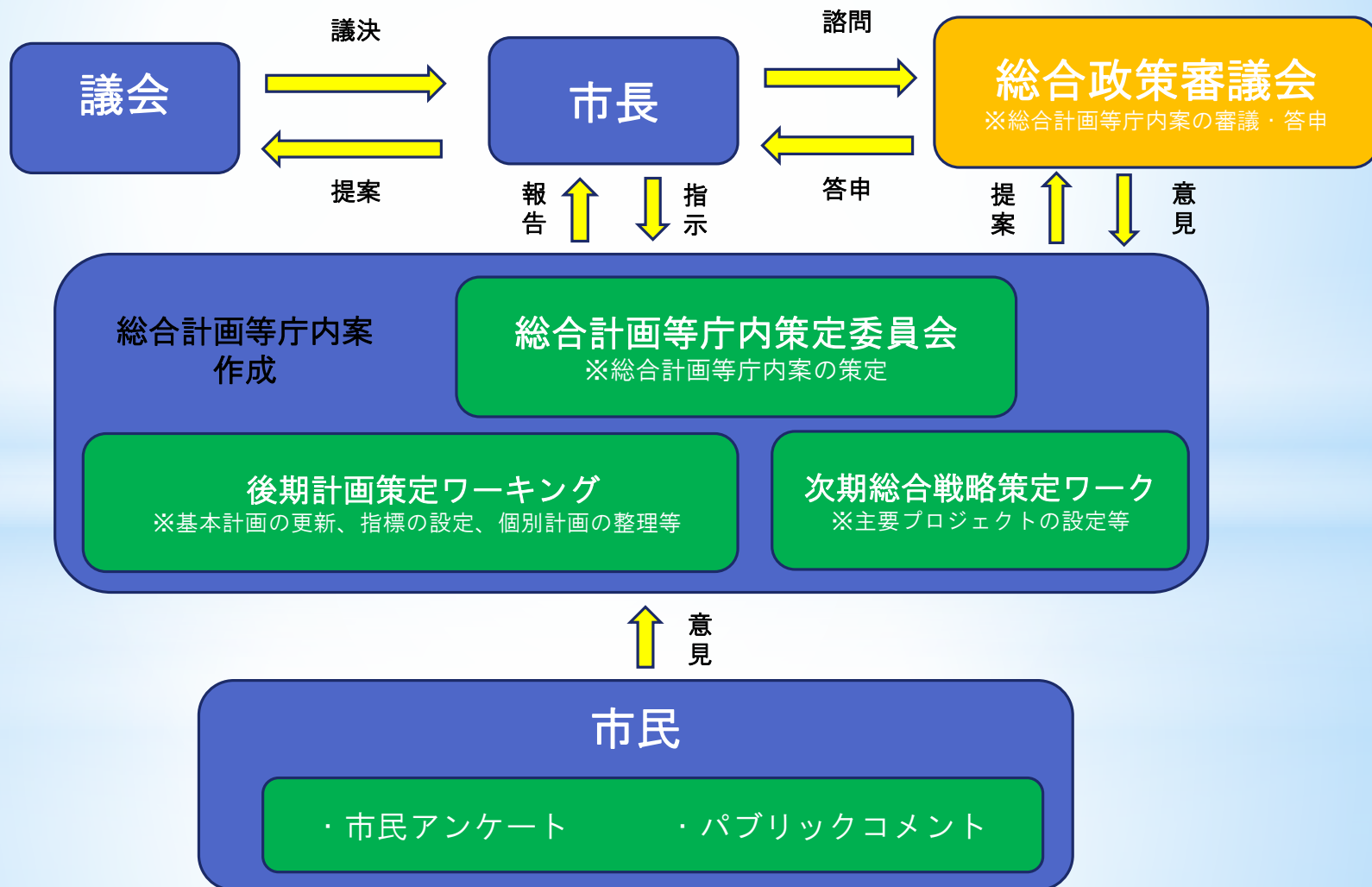
○後期基本計画（7年間）⇒令和8年度～令和14年度

## ● 次期檜原市総合戦略（令和8年度施行）

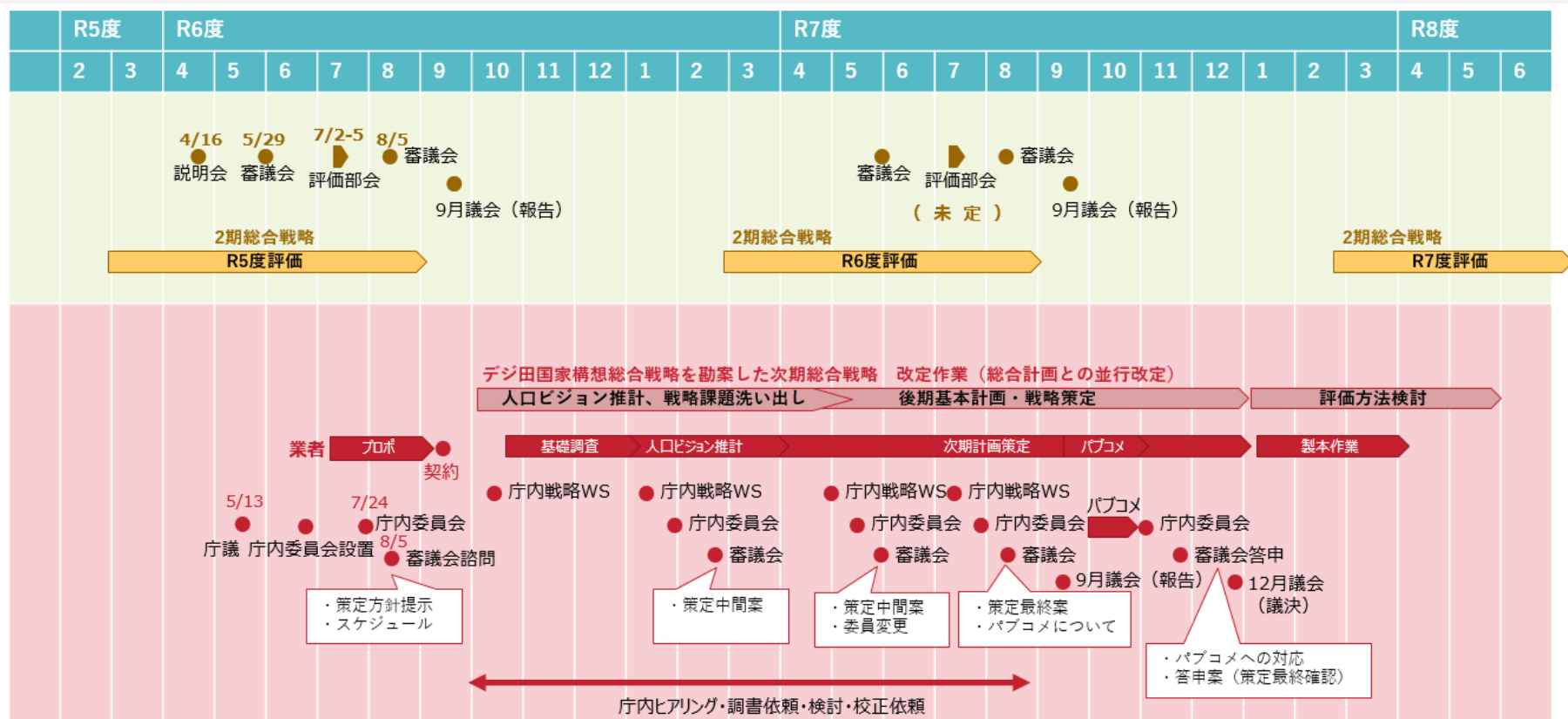
⇒令和8年度～令和14年度（7年間）

令和5年9月議会での議会からのご指摘があったこともあり、市長公約や施政方針との整合性を図るため、総合計画の基本構想を2年間延長し、後期基本計画及び総合戦略の計画期間を7年間とします。

# <第4次総合計画後期基本計画及び 次期総合戦略の策定体制>



# <第4次総合計画後期基本計画及び 次期総合戦略の策定スケジュール>



# <総合計画・総合戦略の策定対象>

## ▶ 榎原市第4次総合計画

将来ビジョン  
「はじまりから未来へ つながりきらめくまち かしはら」

4政策と  
政策の土台

基本構想

27施策分野

基本計画

184 事務事業

実施計画

- ▶ 第2期榎原市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ▶ 榎原市人口ビジョン

4目標

基本目標

7重点施策

基本的方向  
(重点施策)

取組み

取組み

取組み

今回の策定  
対象箇所

# ＜総合政策審議会にお願いすること＞

- 総合計画等庁内策定委員会で取りまとめた  
第4次総合計画後期基本計画の庁内案の審議
- 総合計画等庁内策定委員会で取りまとめた  
次期総合戦略の庁内案の審議



# ＜庁内での作業＞

## ● 総合計画後期基本計画の庁内案の策定

⇒ 基本計画における各施策分野の「目指す姿」及び「指標」の設定、「現状・課題」及び「取組み例」の更新、各個別計画の整理等

## ● 次期総合戦略の庁内案の策定

⇒ 総合戦略に関連付ける事業・取組みの設定、重要業績評価指標（KPI）の設定等

# <冊子上のイメージ（総合計画①）>



冊子P.18～21  
策定の対象では  
ありません。

# <冊子上のイメージ（総合計画②）>

基本計画


## 1 保育・幼児教育

**目指す姿**

子どもが自分の個性や能力を伸ばし、夢と希望を描いています。

**現状・課題**

- 就労形態の多様化や共働き世帯の増加などに伴い、保育所への入所希望者は年々増えており、独自でこども園\*5園を開設するなど受け皿確保に努めているものの、待機児童\*の解消には至っていません。保育・幼児教育にかかる資源を最大限活用しながら、多様な保育ニーズに柔軟に対応できる体制の構築が求められます。
- 生活習慣や社会性、豊かな感性を育む生活体験は子どもにとってとても重要な体験ですが、共働き世帯の増加や家庭の小世帯化により、その機会が減少しています。それを補う上で、保育・幼児教育の重要性は増しており、子どもの豊かな成長のため、さまざまな生活体験を提供していく必要があります。
- すべての市立幼稚園の耐震化が完了しましたが、築40年を経過した施設が多くあり、老朽化が進んでいます。子どもが安全に生活できるよう、計画的な施設設備の保守管理が求められます。また、変化する生活様式に対応した、幼児期にふさわしい生活環境を整える必要があります。
- 適正な集団規模を確保することは、義務教育及びその後の教育の基礎を培う幼児教育にとって大変重要なことですが、本市の市立幼稚園の総園児数はピーク時から8割減少し、園児数の減少傾向は著しい状況です。今後さらに小規模化が進むと見込まれることから、再配置を含めた、幼稚園規模の適正化を図ることが求められます。

関連する SDGs 

**成果を測る指標**

幼少期の子どもの笑顔が輝き、のびのびと育っていると感じる市民の割合

実績値：42.6%

**取組み例**

**体制**


- 私立保育園と連携し、受入れ体制の整備を図ります
- ★ 保育士・幼稚園教諭の確保と保育士・幼稚園教諭の処遇改善を図ります
- 幼稚園・保育所・認定こども園などが相互に情報共有・連携をします
- 保育・教育施設と小学校・中学校との連携を推進します
- 柔軟な保育・教育ができる人材を育成します
- 障がい児加配\*講師・保育士を継続して配置します

**内容**

- 保育サービスについての詳細な情報を提供します
- 外部専門家・地域交流などによる魅力的で豊かな人間性を育む体験を提供します
- 多様な就労形態や保護者ニーズに対応するための保育を実施します

**施設**

- 「就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針」に基づき実施計画を策定し、保育所・幼稚園の再編に取り組みます
- 計画的に機器・教材・施設などを整備するとともに、ICT\*化を図ります



5年前の内容なので、「現状・課題」及び「取組み例」を更新します。

各分野の個別計画の総合計画への関連付け再度整理します。

**個別計画**

- ▶ 榎原市食育推進計画
- ▶ 榎原市子ども・子育て支援事業計画
- ▶ 榎原市就学前保育・教育指針
- ▶ 榎原市就学前人権保育・教育指針
- ▶ 就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針

- ▶ 榎原市学校施設整備基本計画
- ▶ 榎原市教育施設再配置基本方針
- ▶ 榎原市発達障がい者支援推進プログラム
- ▶ 榎原市教育大綱

26 榎原市第4次総合計画

榎原市第4次総合計画 27



# <冊子上のイメージ（総合戦略①）>

## 3 基本目標と重点施策（基本的方向）の体系

国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略が示す基本目標を勘案しつつ、横原市第4次総合計画のまちづくりの理念及び基本構想の将来ビジョンを踏まえて、本戦略の基本目標を下記のとおり定めました。

### 基本目標① 地の利を活かしたしごとの場づくり（しごと分野）

安定的な働く場の確保は、安定的な人口の維持にとって極めて重要であり、京京和自動車道整備による地の利を活かした企業誘致と起業支援を推進します。

<数値目標>

指標名	初期値	目標値
市内事業所数（※）	131事業所（R1）	134事業所（R7）
市内従業員数（※）	5,453人（R1）	5,578人（R7）

※ 従業員3人以下の事業所は除く

### 基本目標② 新たな人の流れや交流を盛んにする魅力づくり（ひとの流れ分野）

本市の歴史的な魅力を磨きあげ、未来に向けた新たな魅力資源づくりや魅力発信を行うことを通じて、市民の定着はもとより、関係人口\*や移住人口の増加を図ります。

<数値目標>

指標名	初期値	目標値
社会増減（転入者数－転出者数）	▲309人（H30）	▲150人（R7）
宿泊者数	201,415人（R1）	210,000人（R7）

### 基本目標③ 安心して子どもを産み育てられる環境づくり（子育て分野）

安心して子どもを産み育てられるよう、結婚・妊娠・出産から教育まで切れ目のない子育て支援をさらに強化し、子どもたちがすくすく育ち、地域ぐるみで子育てを楽しむまちづくりを進めます。

<数値目標>

指標名	初期値	目標値
18歳以下の子どもの増減	▲2,101人（H26→R1）	▲1,050人（R1→R7）
市を特徴づけるキーワードに「子育て」を選んだ人の割合	47.0%（H30）	62.3%（R7）

### 基本目標④ 安心して健康に暮らせるまちづくり（まちづくり分野）

災害や犯罪などから市民を守るための基盤整備や見守り・支えあいのコミュニティの強化を図るとともに、奈良県立医科大学とも連携して健康で快適に暮らせるまちづくりを進めます。

<数値目標>

指標名	初期値	目標値
災害協定件数	38件（R1）	48件（R7）
市を特徴づけるキーワードに「医療・健康」を選んだ人の割合	58.9%（H30）	62.3%（R7）

## 重点施策（基本的方向）の体系

基本目標の分野（「①しごと」「②ひとの流れ」「③子育て」「④まちづくり」）ごとに、重点施策（基本的方向）を下記のとおり定めました。

基本目標	重点施策（基本的方向）
目標1 地の利を活かしたしごとの場づくり	1 企業誘致や起業支援を進めます
目標2 新たな人の流れや交流を盛んにする魅力づくり	1 幅広い層の魅力発信を進めます 2 自然・歴史・文化資源を活かしたまちづくりを進めます
目標3 安心して子どもを産み育てられる環境づくり	1 子育て世代への支援を進めます 2 魅力ある教育を進めます
目標4 安心して健康に暮らせるまちづくり	1 地域住民と連携したまちづくりを進めます 2 奈良県立医科大学と連携したまちづくりを進めます

主な取組を設けるとともに、KPI\*を設定しております。内

第2期総合戦略で見えてきた課題への対応策を踏まえて、重点施策を整理する。

基本目標：これまでの取組みのつながりがあるため、大きく変更はしない。  
数値目標：評価しやすい新しい指標の設定を検討します。

# <冊子上のイメージ（総合戦略②）>

第2期藤原市まち・ひと・しごと創生総合戦略

## 4 重点施策（基本的方向）

### 基本目標 1

#### 地の利を活かしたしごとの場づくり ～京奈和自動車道を活かした企業誘致と起業支援～

- ねらい**
- 京奈和自動車道が全線開通すれば、本市は東西南北の広域交通の結節点となり、利便性が大きく高まることから、これを活かした企業誘致を進めます。
  - 奈良県立医科大学周辺における「樫原キャンバスタウン構想\*」の具体化を進めるため、企業誘致の促進に努めます。
  - 古民家などの本市ならではの資源を活かした起業につながる情報発信や支援を進め、しごとの場づくりに努めます。

### 重点施策 （基本的方向）

#### 1-1 企業誘致や起業支援を進めます

- <主な取組み>**
- ◆ 樫原キャンバスタウン構想における企業誘致の促進
  - ◆ 起業につながる情報発信と支援制度の整備



樫原キャンバスタウン  
奈良県立

新しく見直しを行った重点施策の達成度がはかれるKPIの指標を設定する。

#### <重要業績評価指標（KPI）>

指標名	初期値	目指す値
企業立地に関する相談件数	5件（R1）	8件（R7）
空き店舗（創業者）出店支援件数	3件（R1）	5件（R7）

### 基本目標 2

#### 新たな人の流れや交流を盛んにする魅力づくり ～自然・歴史・文化を楽しんで魅力発信～

- ねらい**
- 豊かな歴史資源はもとより充実した施設や季節に応じたイベントなどの多様な資源の魅力を、行政のみならず市民サポーターや来訪者がさまざまな角度から自発的に情報発信する仕組みをつくり、移住・交流・関係人口の拡大につなげます。
  - 市内各地の魅力スポットをつなぐ空間的ネットワークや人的つながりづくりを進めるとともに、「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録推進に向けた取組みを奈良県や関係市村などとも連携して進め、郷土愛（シビックプライド\*）の向上や来訪者の増加につなげます。

### 重点施策 （基本的方向）

#### 2-1 幅広い樫原の魅力発信を進めます

- <主な取組み>**
- ◆ 移住・交流・関係人口拡大に向けた支援と情報発信



藤原市移住ガイドブック「おいでよ かしはら」

#### 2-2 自然・歴史・文化資源を活かしたまちづくりを進めます

- <主な取組み>**
- ◆ 魅力スポット周辺につながるネットワークづくり
  - ◆ 世界遺産登録に向けた取組みの推進



世界遺産登録を目指す藤原宮跡

#### <重要業績評価指標（KPI）>

指標名	初期値	目指す値
三世代ファミリー定住支援住宅取得補助金の交付件数	5件（R1）	15件（R7）
今井まちなみ広場・西環濠駐車場の利用台数	78,217台（R1）	87,000台（R7）
構成資産「藤原宮跡・藤原京朱雀大路跡」の史跡指定率	98.6%（R1）	100%（R7）

# <総合計画・総合戦略の策定フロー>



# <今回ご確認いただきたいこと>

## ①後期基本計画・次期総合戦略の計画期間

- ・第4次総合計画・基本構想の計画期間を2年間延長します。
- ・後期基本計画・次期総合戦略の計画期間は7年間とします。

## ②総合政策審議会の役割

- ・後期基本計画・次期総合戦略の庁内案を審議します。
- ・次回の総合政策審議会は、令和7年2月頃の予定です。

## ③庁内での策定作業

- ・評価しやすい目指す姿・指標の設定、現状・課題等の更新等。
- ・総合戦略策定ワークによる次期総合戦略の策定。

# <次期総合戦略の策定について>



# デジタル田園都市国家構想とは

全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会



○デジタルの技術の活用によって地域の個性を生かしながら、  
地方の課題解決や魅力向上の取組みを加速化・深化する

○これまでの地方創生の取組みについても、  
改善を加えながら推進する

# <構想実現に向けた取組方針>

## デジタルの力を活用した地方の社会課題解決

- 地方に仕事をつくる
- 人の流れをつくる
- 結婚・出産子育ての希望をかなえる
- 魅力的な地域をつくる
- 地域の特色を活かした分野横断的な支援

## 誰一人取り残されないための取組み

- デジタル推進委員の展開
- デジタル共生社会の実現
- 経済的事情等に基づくデジタルデバイドの是正
- 利用者視点でのサービスデザイン体制の確立
- 誰一人取り残されない社会の実現に資する活動の周知・横展開

## デジタル人材の育成・確保

- デジタル人材育成プラットフォームの構築
- 職業訓練のデジタル分野の重点化
- 高等教育機関等におけるデジタル人材の育成
- デジタル人材の地域への漂流促進

## 構想を支えるハード・ソフトのデジタル基盤整備

- デジタルインフラの整備
- マイナンバーカードの普及促進・利活用拡大
- データ連携基盤の構築
- ICTの活用による持続可能性と利便性の高い公共交通ネットワークの整備
- エネルギーインフラのデジタル化

# <国の総合戦略の変化>

2020年改訂版  
国のまち・ひと・しごと創生総合戦略

## <基本目標>

- ①稼ぐ地域をつくるとともに、  
安心して働けるようにする
- ②地方とのつながりを築き、  
地方への新しいひとの流れをつくる
- ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ひとが集う、安心して暮らすことができる  
魅力的な地域をつくる

大きな変化はなし

2023年改訂版  
国のデジタル田園都市国家構想総合戦略

## <施策の方向>

- (1) デジタルの力を活用した地方の社会課題解決
  - ①地方に仕事をつくる
  - ②人の流れをつくる
  - ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる
  - ④魅力的な地域をつくる

デジタルの要素が追加

## (2) デジタル実装の基礎条件整備

- ①デジタル基盤の整備
- ②デジタル人材の育成・確保
- ③誰一人取り残されないための取組

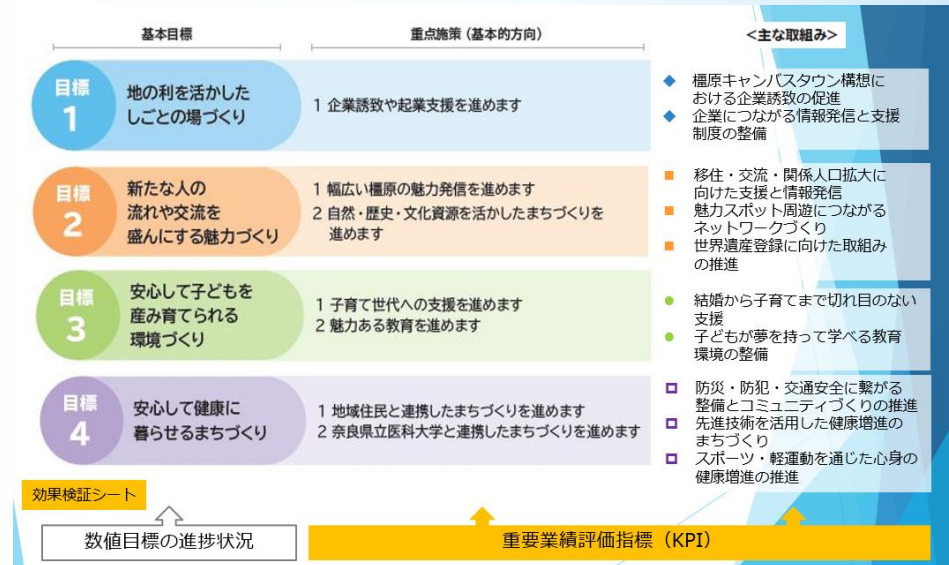
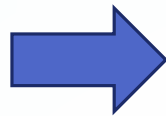
# <国が示すデジタル要素の例>

- ・ I C T を活用した医療・教育体制の整備
- ・ デジタル技術を活用した防災、減災対策
- ・ 行政手続きのオンライン化、窓口手続きのデジタル化
- ・ 地域活動や産業活動における D X の促進
- ・ ゼロカーボンの推進
- ・ サテライトオフィスの誘致、新しい働き方環境の整備
- ・ ワーケーション環境の充実
- ・ 商工業振興に向けたデジタル化の推進
- ・ デジタル技術を活用した重症化予防対策の強化
- ・ V R、A R、A I を活用した滞在型観光の推進
- ・ 5 G 環境の整備推進

# < 榎原市 第1期総合戦略から第2期総合戦略へ >

第1期榎原市まち・ひと・しごと  
創生総合戦略  
(平成27年度～令和元年度)

第2期榎原市まち・ひと・しごと  
創生総合戦略  
(令和3年度～令和7年度)



- ・ 重点施策 (基本的方向) を絞り、主要事務事業と K P I の設定を行った
- ・ 地方創生について重点的かつ横断的に推し進めていく方向性を「基本目標－重点施策－主な取組み」という体系で示している



# <第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略から継続する点>

## ・ 将来ビジョン

「はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら」

→総合計画が後期計画であり、将来ビジョンや政策体系に変更はないため、戦略もビジョンは引き継ぎ継続する

## ・ 基本目標

- ①地の利を活かしたしごとの場づくり
- ②新たな人の流れや交流を盛んにする魅力づくり
- ③安心して子どもを産み育てられる環境づくり
- ④安心して健康に暮らせるまちづくり

→これまでの取組みのつながりもあるため、大きくは変更しない

ただ、デジタル要素や、これまでで見てきた課題を解決するために目標設定すべきものの要素を加味する